男女共同参画情報紙

そよかぜ

SOYOKAZE

震災後、私たちが目をむけたこと

「何が大切なのか」考える

2011年3月11日の東日本大震災から1年が経過しましたが、この地震、津波による災害からの復旧・復興と原発事故の収束そして放射能の除染には、まだまだ長期の時間がかかりそうです。

今回のような大災害は、いつまた、どこで起こるかわかりません。男女共同参画の視点をもった、災害に対する常日頃からの備えが大切です。

今号では、東日本大震災から得られた情報・教訓をもとに書かれた「子どもの災害への反応・心の変化」「高齢者と災害への対応」の記事を掲載し、また、今回の災害を心配して送っていただいた海外の男性・女性からのメールを紹介します。

災害時の必需品リストも掲載しましたので、参考にしてください。

非常持出品、備蓄品チェックリスト

リュックサック

貴重品
- ■現金
- ■預貯金通帳、印鑑
- ■運転免許証
- ■健康保険証
- ■権利証書

衣類
- ■下着・上着・靴下等
- ■軍手・タオル
- ■セーター
- ■雨合羽

各種道具
- ■懐中電灯
- ■携帯ラジオ
- ■乾電池
- ■水筒
- ■わりばし
- ■ろうそく
- ■缶切り、栓抜き
- ■ひも・ロープ
- ■ティッシュペーパー
- ■ウェットティッシュ
- ■雨具
- ■ライター
- ■ビニール袋

救急・衛生用品
- ■ばんそうこう・包帯
- ■傷薬・胃腸薬
- ■目薬・消毒薬
- ■鎮静剤・解熱剤
- ■常備薬
- ■生理用品・紙おむつ

非常食品
- ■カンパン・缶詰
- ■ビスケット
- ■チョコレート
- ■レトルトのおかゆ

備蓄品
- ■米・カップ麺・梅干
- ■粉ミルク
- ■燃料（卓上コンロなど）
- ■水

子どもの災害への反応・心の変化／高齢者と災害への対応 …… ❷
海を越えて届いた、暖かい励まし／震災後のつぶやき …… ❸
情報コーナー・編集後記 …… ❹

第２号
2012.3.15

子どもの災害への反応・心の変化

地震で、小さな子どもの心にも影響が出たようです・・・・
まだ、自分を上手く表現できない２歳の男の子　はる君（仮名）の場合

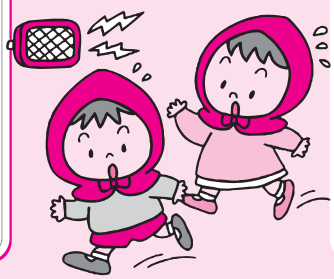
地震の時、部屋に干した洗濯物が激しく揺れ、外に出たら電線が大きく揺れるのを見ました。その後、はる君は、家に入れなくなってしまいました。暫くは、風で揺れるカーテンや洗濯物・電線などにもおびえました。地震という言葉にも敏感になり、自宅に入れないため3月11日から4月末まで母方の実家で生活しました。

お母さん

親があわててはいけない事と揺れている状況をみせなければ良かったと思います。保健センターが紹介してくれた子どもクリニックでは、「余震で怖がる時、スキンシップを積極的にとり、家族のもとで一緒にいれば安心なことを伝えるように」と言われました。
地震後暫くしてから、よく遊んでいる同年代の友達と一緒ならば安心して、少しずつ自宅に入れるようになりました。幼い友達の大切さを感じました。

お父さん

あわてないように、気をつけようと思いました。



おじいちゃんとおばあちゃん

落ち着くまでは、「はるのいうとおりにしよう」と思い、はるの安心できる車の中や電車を見に行ったり、気がまぎれるように動物園に連れていきました。揺れるものに敏感になっていたので、洗濯物が何で揺れているか、実際に見せて説明し、風で揺れていると、目や鼻で感じさせて、安心させるようにしていました。

高齢者と災害への対応

高齢者にとっても大きな衝撃となった大震災について、思いを寄せていただきました。

東日本大震災は、私たち高齢者に「生きる」ということを、あらためて考えさせられる出来事となりました。

自分たちにできること

福島第一原発事故で放射線への不安や風評被害が広がりましたが・・・

○情報に目を向けること
放射能に対する正しい知識と放射線量の測定方法

○日ごろからの心がけ
貴重品の保管場所を知っておくこと

不安になったこと

私たち高齢者にとって・・・

○認知能力の衰えた老人を安心して介護できる環境を社会的制度のもとで整えること

○長期に入院を必要とする老人などの医療環境を整備することは、災害時は特に重要なことだと思います。

自然災害の有無にかかわらず、日頃から隣近所同士のコミュニケーションを深めておくと“もしも”の際に助け合う心が広がることを、この大震災をとおし痛感しました。

海を越えて届いた、暖かい励まし・・・

世界中の人々が心配し、手を差し伸べて、又は、言葉にしてくれています。
ホームステイで日本に来たことのある、又は、行った先で知り合った海外の友人からメールが届きました。

高校生（アメリカ・女性）

「もし、助けが必要ならなんでも言ってください。
そして、もし避難が必要であれば、私の家に来て下さい。
私の祈りは、いつもあなたと日本とともにあります。」

大学生（イタリア・女性）

「そちらの様子はいかがですか？
もし、避難が必要なら
イタリアの私の家にぜひ来て下さい。
おじいさん、おばあさんも一緒に。
あなたの無事を祈って。」

ルーマニアの方（スイス在住・女性）

「私たちもチェルノブイリを経験しましたから、
その不安はよくわかります。
でも、私は日本が大好きなので、
日本に行ってみたいと思っています。」

研修生（スリランカ・男性）

「私たちは日本の震災のことを聞いて、本当に悲しかったけれど、あなたたちが安全で無事と聞き、ひとまず安心しました。恐らく世界中の人々が悲しむでしょうし、彼らは地球家族の一員として日本人に係わろうとするはずです。
私たちも、あなたたちとこの深い悲しみを共有したいと思います。そして、あなたたちの美しく素晴らしい国にもうこれ以上の災害が起こらないことを祈ります。」

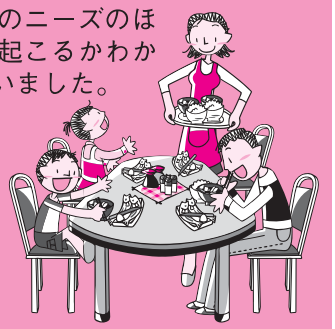
たくさんの国から、日本を心配する気持ちが伝わります。
日本の大変さを自分のことのように感じていることを知りました。

震災後のつぶやき・・・

東日本大震災の避難所では、男女別トイレや更衣室、授乳場所の設置など、被災地での男女のニーズのほか、女性、子ども、障がい者、高齢者に配慮した対応の大切さが報じられました。今後いつ起こるかわからない自然災害などの非常時においても、このことを考えた心構えを持つことが必要だと思いました。

震災後、“これは、便利！”と思ったものをいくつか紹介します。

- **湯たんぽ** ・・・ 寒い時に、優しいぬくもり。
- **走れるパンプス** ・・・ 走れるパンプス・・・脱げにくく、歩く・走るがＯＫです。
- **カップ麺** ・・・ 器に入っているのでお湯さえあれば、食べられます！



平成23年度　久喜市男女共同参画推進月間事業報告

第8回　男と女のつどいを開催

平成23年6月25日（土）、中央公民館において「男と女のつどい」を開催しました。この催しは、久喜市と女と男いきいきネットワーク久喜との共催で毎年行っているものです。
記念講演は、横浜市男女共同参画センター横浜北の常光明子事業課長から、「男女共同参画の視点から考える地域の防災」というテーマで講演をいただきました。東日本大震災後でもあり、100名を超える参加者は、聞き入っていました。また、ネットワーク加入団体のワークショップや、作品展示も多くの市民でにぎわいました。

わくわく！どきどき！　1日体験学習ツアー

身近なところで、男女共同参画について学習する事業として、6月10日（金）埼玉県防災学習センター（鴻巣市）を訪問しました。
また、食の安全・大切さを学ぶことを目的にＪＡ邑楽ミートセンター（群馬県邑楽町）において、無添加の手作りウインナー体験を行いました。
参加した26人は、両施設において、楽しく学び・体験をしました。

毎年6月23日から29日は、「男女共同参画週間」です（国）
毎年6月は、男女共同参画推進月間です（久喜市）

ご利用ください！
女性の悩み相談
（カウンセリング相談）

女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク

相談日程	原則毎月第１・第３金曜日 午後１時～午後５時
相談会場	久喜市役所４階　相談室３
相談時間	１人50分
対　　象	市内在住・在勤・在学の女性 （受付は、申し込み順）
相 談 員	経験豊富な女性カウンセラー
費　　用	無料
申込方法	相談日の１か月前から電話又は窓口で受け付けます。

面接、電話相談
どちらでも相談できます。
お気軽にご連絡ください。

女と男いきいきネットワーク久喜
会員募集します

会員相互の交流を深めながら豊かな地域社会づくりを目指して、ともに学び、地域の輪を広げるための活動を行っています。みなさんのご加入をお待ちしています。
(団体・個人でも可)

申込み・問合せ　同団体会長　倉持まで
電話／FAX　0480（22）4545

そよかぜの編集員を募集します

「そよかぜ」は、市民の編集員により企画・編集されています。男女共同参画や情報紙づくりに関心のあるみなさん、一緒に情報紙をつくってみませんか。

募集人数　５人
応募方法
応募期限　後ほど広報・ホームページにてお知らせします
情報紙発行回数　年１回、３月を予定

編　集　後　記

東日本大震災を経験して、いつどこで大きな地震が発生するか本当にわからない事を痛感しました。「何が大切なのか」を考えるようになり、人のつながりを重んじる事の大切さを感じました。これから、もっと地域のコミュニティや家族の絆を深めることが必要だと思います。

編集スタッフ　小川和夫・工藤憲代・関根寿美子・田村悦江・若林明美

◆発　行／久喜市総務部人権推進課

この情報紙は59,000部作成し、1部あたりの単価は4円です。

この情報誌は古紙100%の再生紙を使用しています。

〒346－8501　久喜市下早見85－3
電話：0480－22－1111（内線2322）　FAX：0480－22－3319　メールアドレス：jinken@city.kuki.lg.jp

～　お互いの人権を尊重しましょう　～